

# 令和元年度 施策評価シート

基本目標		安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	480	未来に引き継ぐ、環境にやさしいまちをつくる
施策	481	地域にやさしい、環境に配慮した暮らしをともにつくる
施策の目標	区民・事業者に省資源・省エネルギー行動が定着し、創エネルギーや蓄エネルギー設備の導入も進んで、温室効果ガスの排出を抑制したスマートエネルギーのまちとなっています。また、区民・事業者・区が協働して、環境にやさしいまちを実現するために環境保全活動に取り組んでいます。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	温室効果ガス排出量の削減割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				-20.0%					-25.0%
実績										
指標名	環境ボランティア登録者の実働割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				71%					75%
実績										

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
道路、公園等の照明灯は、水銀灯、蛍光灯が多い。それを環境に配慮したLED照明灯に取り替えることで、省資源・省エネルギー、温室効果ガス排出量の削減となり、環境にやさしいまちを実現することに繋がる。 また、水銀を使った製品は、2020年以降は製造も輸出入も禁止されるので、LED化を急ぐ必要がある。	H28	-
	H29	-
	H30	89,978

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	道路、公園等の照明灯のうち、LED化が85%以上完了し、省資源・省エネルギーとなり、温室効果ガス排出量の削減に繋がっている。

## 4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
道路、公園等の照明灯のLED化が完了していないので、継続する必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
道路、公園等の照明灯をLED化を継続しつつ、温室効果ガス排出量の削減できる施設がほかにないのか検討していく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	直近の評価内容
						年度目標値	評価結果
						年度実績値	評価対象年度
1	道路照明灯LED化事業費	73,924	9,056	82,980		80.5	現状維持
						79	平成30年度
2	公園園内灯LED化事業費	17,054	9,056	26,110		25	現状維持
						22.9	平成30年度
3							
4							
5							
6							
7							
8							



事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	LED化済み基数(ポールド灯除く。)				単位	基
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		10,652	R5	目標	—	1,540	9,247	9,527
				実績	—	1,540	9,247	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	9,807	10,087	10,367	10,652			
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	環境対策及び維持経費抑制の進捗の確認を行う必要がある。 平成30年度に標準型照明灯の未改修7,690基をリース方式でLED化し、デザイン灯等の未改修1,405基は令和元年度から令和5年度までの5年間で、年間約280基ずつ改修工事でLED化する。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	生活環境評価での交通の便に満足している区民の割合				単位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
83.5		R5	目標	79	—	80.5	—	
			実績	79	—	79		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	82	—	83.5	83.5				
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
環境に配慮したLED照明灯に取り替え、安全・快適に通行できる状態を確保することで、交通環境に満足している区民割合を高めることに繋がる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	ポールの腐食により倒壊等の危険性があるので設置方法を検討しつつ、今後も継続していく。

課題・問題点
<p>LED化されていないデザイン照明灯1,405基は、水銀ランプ等の在庫がなくなれば、点灯なくなってしまうので、進捗を急ぐ必要がある。</p> <p>ポールの腐食により倒壊等の危険性があるので、単独式照明灯のポール2,773本(2,773基/10,652基)は、設置後30年以上経過しないように毎年92本の建替えを行う必要があるが、現在の毎年55本の建替えでは、設置後50年経過する計画になっている。(LED化済みの灯具は、新設ポールに移設する。)</p>



事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 ( 活 動 指 標 )	指 標	LED化済み基数				単 位	基
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1,005	R7	目 標	—	71	690	740
				実 績	—	71	690	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	790	840	890	940	990	1,040	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	環境対策及び維持経費抑制の進捗の確認を行う必要がある。 平成30年度に標準型照明灯の未改修558基をリース方式でLED化し、デザイン灯の未改修506基は平成30年度から令和9年度までの10年間で、年間約50基ずつ改修工事でLED化する。							
	目 的 に 対 する 指 標 ( 成 果 指 標 )	指 標	「公園・児童遊園に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
28		R7	目 標	24	—	25	—	
			実 績	24	—	22.9		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	26	—	27	—	28	28		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
環境に配慮したLED照明灯に取り替え、快適な利用環境をつくりだすことが、公園・児童遊園に満足している区民の割合を高めることにつながる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	ポールの腐食や疲労破壊により倒壊の危険性があるので設置方法を検討しつつ、今後も継続していく。

課題・問題点
<p>LED化されていないデザイン照明灯506基は、水銀ランプ等の在庫がなくなれば、点灯しなくなってしまうので、進捗を急ぐ必要がある。</p> <p>ポールの腐食や疲労破壊により倒壊の危険性があるので、単独式照明灯のポール934本(934基/1,196基)は、設置後30年以上経過しないように毎年31本の建替えを行う必要があるが、現在の毎年17本の建替えでは、設置後55年経過する計画になっている。(LED化済みの灯具は、新設ポールに移設する。)</p>